

法音院の鎮守社 「三社明神」について

【月輪山と春日社】東山三十六峰のひとつ「泉山」の古名を「月輪山」というように、この地は月の名所であった。平安京遷都の際、藤原一族は南都から氏神「春日明神」を勧請して守護神と仰ぎ、大原野神社や吉田神社などを創建している。月の名所である三笠山を神体山とする春日日本社に対して、京都では「月輪山」山麓に藤原摂関家「九条家」の別邸「月輪殿」が建設される。当然ここに春日祭祀が規模を整えていく端緒がある。元来、悲田院の丘には藤原忠平（八八〇～九四九）御墓、観音寺には藤原忠通（一〇九七～一一六四）墳墓が築かれたように、このあたり一帯は藤原摂関家の伝統的葬地であり、九条兼実（一一四九～一二〇七）によって月輪殿が設置されると、祖先供養のため「報恩院」が建立される。九条道家（一一九三～一二五二）が東福寺を創建すると、その中に法性寺も報恩院も併呑され、氏神の春日明神も東福寺鎮守社「五社成就宮」に再構成されることになる。五社明神は春日社を中心に八幡・賀茂・稻荷・日吉神を合祀したもので、その祭礼「総社祭」の豪華絢爛さは祇園祭に匹敵したという。一方で春日社奥宮としての若宮社「金剛童子社」が、ひっそりと月輪山中に残されていたと思われる。

【法音院の本尊】泉涌寺の源流は斉衡二年（八五五）に左大臣・藤原緒嗣が創建した法輪寺（仙遊寺）である。藤原緒嗣（七七四～八四三）は、桓武天皇を擁立した式家・藤原百川の嫡子である。ライバルで一歳年下の北家・藤原冬嗣とともに桓武王朝を支えた人物でもある。冬嗣といえは藤家氏寺の南都興福寺に南円堂を造営して不空羂索観音を安置したことで知られる。鹿皮をまとった不空羂索観音は、鹿を神使とする春日明神の本地仏であるから、おそらく緒嗣が月輪山に創建した法輪寺にも不空羂索観音が祀られていたのであろう。

鎌倉時代の嘉暦元年（一二二六）に無人房如導によって創建された法音院が、特殊な不空羂索観音を本尊とするのは、こうした緒嗣創建の法輪寺を継承した故かもしれない。ながらく今熊野観音寺の西隣「俗に長福寺屋敷跡」に位置していた法音院が江戸時代の寛文五年（一六六五）に現在地に移転する際、同時に遷座されたと思われる鎮守社殿は部材仕口に「金剛童子」「墨書銘が読めるから春日若宮系の神仏習合神祠であったと考えられる」。

【鎮守社の復旧】今般、社殿を春日造りの原形に修復するとともに、祭神考証の結果として春日明神を中心に八幡大菩薩・天照大御神の三社に復旧した。この三社信仰は、古来より錦御旗に揮毫される三神号であり、皇室外戚として栄華を誇った九条家が鎌倉幕府と連帯した頃の政治状況に近似するから、まさし

く月輪殿の故地に相応しい。撰閑家の諡号 院号)では報恩院を憚って 法音院」と表記された人名もみえるから、寺名にも通じる。現本堂は英照皇太后の大喪儀 御須屋」の移築建築であるが、九条夙子(一八三五〜一八九七)皇太后は春日神末裔・藤原嫡流九条家の出自であられる。いくえにも深い神縁を感じるものである。

【三社の御神徳・御利益】

八幡大菩薩

武運長久・仏法守護・競事勝利・受験合格・安産祈願

春日大明神

子孫繁栄・交通安全・商売繁盛・立身出世・恋愛成就

天照太神宮

国家安穩・世界平和・五穀豊穰・家内安全・心願成就

【英照皇太后御歌】

まつりごと旧ふるきにかへるかしこさに 神のこころもくみて仰がむ

【神鹿】

共に鹿を神使とする春日明神と寿老人が境内に祀られ、又、当院の本尊、不空羅索観音は春日明神の本地仏 本来の姿である仏様)であるところから、神鹿(狛鹿)として安置している。

○参拝祈り方

- ・鈴を振る
 - ・お参りできたことへの感謝を伝え、願いごとをお伝えする。
 - ・二拝二拍手一拝
 - ・祝詞 (のりと)とよばれる祈りの言葉を唱える。
- ほらいたまえ きよめたまえ かむながら まもりたまえ さきわえたまえ」